

2018 年度

点検・評価報告書  
－アセスメント結果の概要－

法務研究科

2018 年度自己点検・評価

## 法科大学院アセスメント・ポリシー

(2018 年 11 月 13 日版)

法科大学院のディプロマ・ポリシー各項目の達成を目指し、それぞれにアセスメント指標を設けて、教育の改善に取り組んでいる。

アセスメントの基本となる学修の内容と成績評価については、その基本方針を学内外に公表している。すなわち、学修の内容については、「法科大学院の学生が最低限修得すべき内容」(いわゆる創価大学コアカリキュラム)を提示して、主要科目の到達目標及び修得すべき能力を明確にしている。

成績評価については、「創価大学法科大学院履修・成績評価及び進級に関する規程」等に基づき、平常点と定期試験を合わせた合格ライン及び筆記試験の最低合格点(全科目一律 50 点/100 点)を明確にしている。

### 法科大学院アセスメント・プラン

アセスメント項目 (ディプロマ・ポリシーとの関連)	アセスメント指標  以下、アセスメント項目ごとに記載
他者への思いやりをもつ豊かな人間性を備えた法曹 (人間力)	<p>&lt;アセスメント指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○入学試験による判定(入学時)</li><li>○「法哲学」「法曹倫理」「ローヤリング・クリニック」「刑事模擬裁判」「民事模擬裁判」「(各法)演習」における平常点(授業時での発言、小テスト、各種起案、レポート課題など)と定期試験</li><li>○中間アンケート・期末アンケートの実施</li></ul> <p>&lt;自己点検・評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○入試倍率は文部科学省の示した2倍以上を継続して維持している ので、入試による判定は有効に機能している。</li><li>○これらの科目においては、双方向・多方向の授業形態で行っており、その中で人間性の涵養が図られている。</li><li>○各学期2回のアンケートは、平均 93%という高い回収率であり、期末アンケートにおいては、学生の自由意見欄などに記載された意見などに対する教員の回答が記されており、人間教育の基盤である教員と学生との間の信頼関係の造成に有効に作用している。</li></ul>

<p>平和に貢献する 国際性を備えた 法曹 (国際力)</p>	<p>&lt;アセスメント指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「外国法の基礎」「アジア世界と法」「アメリカ法」「中国法」「国際社会における平和と人権」「国際法」「国際私法」「実務法学入門」「海外エクスターンシップ」における平常点(授業時での発言、小テスト、各種起案、レポート課題など)と定期試験</li> <li>○中間アンケート・期末アンケートの実施</li> </ul> <p>&lt;自己点検・評価&gt;</p> <p>○昨年は担当者の体調不良により「海外エクスターンシップ」が実施されなかった。ただ、海外エクスターンシップに参加した学生の司法試験合格率は、2015年度参加者は3/4、16年度参加者は3/4(2017年度に参加した学生は全て在学学生であるので)と、非常に高い。韓国以外にも、海外エクスターンシップ先を拡げることも検討したい。</p>
<p>堅固な基盤の実 力を備えた法曹 (法律力)</p>	<p>&lt;アセスメント指標&gt;</p> <p>(1)1年次 基本六法についての基本的知識の修得と体系的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各科目における平常点(授業における発言、小テスト、各種起案、レポート課題など)と定期試験</li> <li>○中間アンケート・期末アンケートの実施</li> <li>○共通到達度確認試験</li> </ul> <p>(2)2年次 基本的知識・体系的理解の深化と実務に即した問題解決能力の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各科目における平常点(授業における発言、小テスト、各種起案、レポート課題など)と定期試験</li> <li>○中間アンケート・期末アンケートの実施</li> <li>○共通到達度確認試験</li> </ul> <p>(3)3年次 実務的な問題解決能力の向上と幅広い法律実務の知識の修得と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点(授業における発言、小テスト、各種起案、レポート課題など)と定期試験</li> <li>○中間アンケート・期末アンケートの実施</li> </ul> <p>&lt;自己点検・評価&gt;</p> <p>○厳格な成績評価については、学生からの異議申立て制度の存在及び活用という直接的な制度、また、GPAの奨学金とのリンクなどの</p>

間接的な制度によって担保されており、その結果である成績評価の分布においても、厳正さが維持されていると評価できる。

○授業アンケートについては中間アンケートの回収率が94%、期末アンケートの回収率が92%と非常に高いこと、とくに本学専任教員の授業においてはほぼ100%に近いことは、高く評価できる。

○2018年に実施した第4回「共通到達度確認試験」試行試験5/10人が受験した。未受験者5人のうち3人は進路変更を検討中のものである。また、2年次では19/26人が同試験を受験した。未受験者7人のうち1名が病欠、1名がエクスターンシップ中、1名が帰省中であった。現時点では受験が義務化されておらず、勸奨にとどまるなかで行われたことを考慮するとき、本学の受験率は水準を満たしていると評価できる。